



Time:12:30時点

※前回報:11月2日報 Vol.:26

統括部 企画統括課

今週のTOPIC

米国の10月消費者物価指数が8か月ぶりに8%を下回り大幅利上げ懸念が後退

■ [11月CP] プロパン: \$610 (前月比+\$20)、ブタン: \$610 (前月比+\$50) ■ [10月MB平均]: \$442 (前月比▲\$76)

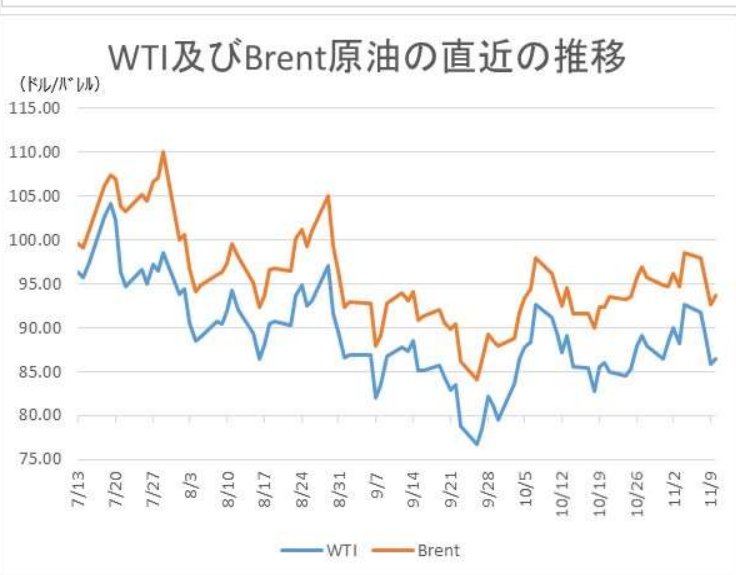
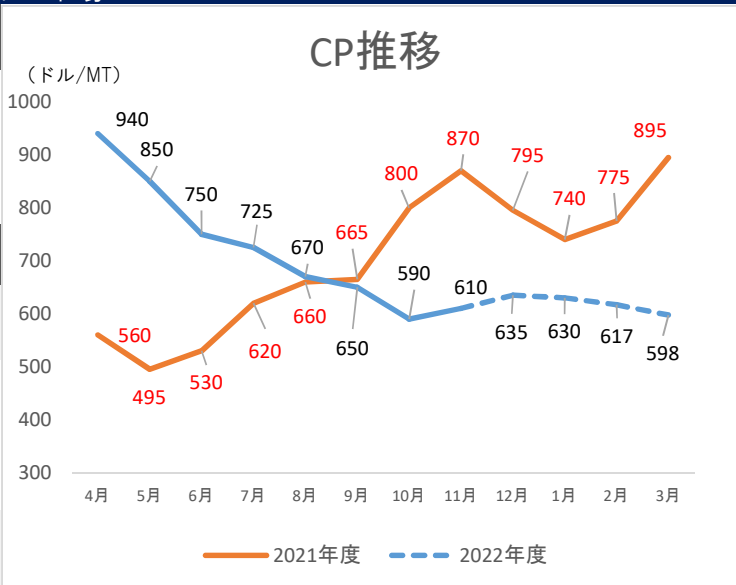
エネルギー市場

原油 先物 (USD/BBL)	今回	前回	前环比
NY/WTI (12月)	88.96	86.53	+2.43
北海Brent (1月)	95.99		

LPガス 先物 (USD/MT)	AL熱量換算比			
プロパン予想値	今回	前环比	今回	前环比
CP 12月	635	+19	81%	+3%
MB 11月	456	▲1		

プロパン	1月	2月	3月	4月	5月
CP先物	630	617	598	576	560
プロパン	12月	1月	2月	3月	4月
MB見通し	457	467	465	456	446

外航フレート (USD/MT)	11/11時点	※前回	前环比		
中東-日本	130.0	103.0	+27.0		
米国-日本 (パナマ運河経由)	189.0	147.5	+41.5		
為替/TTS	11月予測	10月	9月	8月	
USD/円	20日迄	146.97	146.84	141.57	135.83
	末日迄	144.74	148.19	144.09	136.24



LPG元売り12月改定幅予測値 (円/t)	プロパン	ブタン
ジャパンガスエナジー	改定レンジ: +4,000~+4,600	+6,400~+7,000
ENEOSグローブ	改定レンジ: +3,300~+3,900	+4,000~+4,600
アストモスエネルギー	改定レンジ: +1,900~+2,500	+4,400~+5,000
ジクシス	改定レンジ: +3,200~+3,800	+4,000~+4,600

マーケット概況

	今回	※前回	前环比		今回	※前回	前环比
NYダウ (US\$)	33,747.86	32,834.61	+913.25	TOPIX (円)	1,964.90	1,938.50	+26.4
S&P500 (US\$)	3,992.93	3,890.42	+102.51	金 (Gold) 先物 (US\$)	1,766.65	1,649.40	+117.25
米国債券10年利回り (%)	3.891	3.984	▲0.093	VIX恐怖指数 (%)	22.52	25.91	▲3.39
日経平均 (円)	28,047.58	27,678.92	+368.66				

## 今週のTOPIC

米国の10月消費者物価指数が8か月ぶりに8%を下回り大幅利上げ懸念が後退

## 原油概況

★原油供給不安と景気悪化に伴う需要減が交錯しWTIは\$80台で横ばい

## 影響度

強気・  
上昇要因



- ① 米国10月CPIの上昇率低下でドルが下がり、資金流入で原油価格は上昇  
(CPI=消費者物価指数)
- ② 中国の10月原油輸入量は平均1,016万バレル/日と5か月ぶりに増加
- ③ OPECの10月原油生産量は前月比2万バレル/日減り、4か月ぶりの減少

弱気・  
下降要因



- ① EIAは米国原油在庫量が390万バレル増加し昨年7月以来の高水準と発表  
(EIA=米国エネルギー情報局)
- ② 中国はゼロコロナ政策として広東省で住民に在宅勤務を勧告
- ③ インドはロシア産石油の輸入を継続し自国の利益を守ると表明

## LPガス概況

★北半球が需要期に入り冬場にかけてCP\$600台前半の推移予測

(強気)

- ① パナマ運河の滞船状況悪化(北向き航路20日)により供給量が減少
- ② 米国プロパン在庫は需要増により760万tと7か月ぶりに前週比減少

(弱気)

11月のプロパン価格上昇で中国石油化学工業向け需要が減少

## 「インドのロシア産石油輸入」

- ・インドは年間2億1,500万tの石油を消費する世界第3位の石油消費国ですが、第1位の米国と異なり約80%を輸入に頼っています。
- ・インドには明確な同盟国は無く、安価なロシア産石油の輸入という自国の利益を削ってまで欧米のロシアに対する制裁に協力する必要がありません。
- ・欧米の経済制裁で石油の輸出先が絞られたロシアと好条件で石油を調達できる機会を得たインドの利害が一致し、インドはロシア産石油の輸入を拡大しています。